

## 【別紙】

### 1 作物栽培

#### (1) 5月、6月 ～ お茶の栽培と加工

5月上旬、学校の畑で栽培している茶の木で、茶摘み体験を行った。摘み取った茶葉は、学校でお茶に加工した。その後、高等部の作業班が、お茶の計量と袋詰め作業を行った。

学校運営連絡協議会の日に、高等部の生徒が、委員の方々にお茶を手渡した。生徒たちは、学校のお客様に接するにあたり事前に挨拶の練習を行い、当日は緊張しながらも丁寧な対応が行えた。接遇学習のよい機会となった。後日、委員の方々から感謝の言葉が寄せられた。



学校の畑にて茶葉の摘み取り作業（茶摘み）



摘んだ茶葉の選別作業



茶葉の計量、袋詰め作業（お茶パック）



作業班が作ったラベルを貼り、乾燥剤を入れて、個包装のお茶パックの完成  
来校した方に記念品として差し上げたほか、保護者にも1個ずつ配布した

広い畑は開放感があり、作物栽培や収穫作業は、児童・生徒にとって情緒の開放につながる楽しい体験学習となった。中学部の生徒は、収穫した作物を人に手渡す体験を通して、他者と触れ合う学習となった。高等部の生徒は、計量、袋詰めなど総合的に学習を展開できた。

## (2) 6月、7月 ～ ジャガイモの栽培と収穫

ジャガイモは、100kg以上の収穫があったため、有効に活用した。

全国高等学校総合文化祭「とうきょう総文2022」開会式の会場にて、他校と協同で物品販売を行い、ジャガイモを販売した。事前学習での計量、袋詰め作業、挨拶などの接客学習など、総合的に学習を展開できた。

また、ジャガイモの一部を、地域のこども食堂の方に食材として提供した。こども食堂の方からは、丁寧なお礼の言葉が届けられた。



学校の畑でジャガイモ掘り



「とうきょう総文2022」開会式会場で各校が作業製品を販売した



1kgごとに計量、袋詰めしたジャガイモを販売した（高等部）



こども食堂の方に、ジャガイモを差し上げる（中学部）

高等部の生徒たちは、販売活動を体験したことにより、接遇に関する学習を行うことができた。他者から感謝される体験は、自己有用感の醸成につながった。

### （3）7月 ～ 助成金で、ミニリヤカーを購入

研究の助成金で購入したミニリヤカーは、毎回の畑での作業時に用具の運搬に使用したほか、収穫して袋詰めした作物を、地域の自治会館まで運び、提供した。小回りのきく小型のリヤカーは、坂道の多い団地内を歩くのに適しており、大活躍した。

11月には、サツマイモを自治会に運び、提供した。12月には、ダイコンを自治会の会館に運び、役員の方に差し上げた。こども食堂の方には来校していただき、生徒の手から手渡した。



地域の自治会の会館



役員の方からお礼にお茶をいただいた



ダイコンを収穫し、ミニリヤカーに積んで学校まで運ぶ

#### (4) 地域の方々との触れ合い

地域の方との触れ合いの中での感謝される経験は、生徒にとって自己肯定感、自己有用感の伸長につながるものとなった。普段、外部の人と接する機会の少ない生徒たちは、緊張しながらも丁寧な挨拶を行い、活動することができた。社会性の醸成につながる体験学習を展開できた。地域の方からは、「次はいつ来てくれるの？」と期待する言葉も聞くことができた。

また、生徒にとってのプラスだけでなく、学校にも成果が波及した。自治会の方と触れ合う機会が増えていく中で、学校と地域との連携も強くなり、防災対策について協議する場面では協力関係の強化に向けて積極的な発言がいただけるなど、地域と一体となった防災体制の構築にもつながっていった。



自治会館に行き、地域の方に作物を差し上げる（高等部）



近隣の幼稚園に行き、園長にサツマイモを差し上げる（中学部）

#### (5) まとめ

一年間をかけて行った地域貢献活動は、外部の人と接する機会の少ない本校の児童・生徒にとって、地域の方々や外部の人と触れ合う体験を意図的に作ったことを通して、自己有用感を醸成し、社会性を伸長させる学習を行うことができた。また、多方面にわたる総合的な学習を展開できたことで、幅広い学習を行う機会となった。このことが、卒業後の地域生活への移行に大いに役立つ学習ができたと総括できた。